

いざという時、子どもを守るために

6/28

社協が子育て世代を対象にした防災セミナーを初開催

社会福祉協議会は、健康増進施設にて「東海地震から子どもを守る防災セミナー」を開催し、子育て中の母親など約35人が参加しました。

防災ファシリテーターのあんどうりすさんは、アウトドアの見識を生かした防災知識を紹介。またNPO法人「だっことおんぶの研究所」の京井麻由さんは、避難時の正しい抱っこの方法などを指導しました。あんどうさんと京井さんがそれぞれ「日頃から災害対応能力を高めよう」「地域内でお互い助け合うことが大事」と呼び掛けると、参加者は一様にうなずいていました。



災害時における子育て用具の活用法を紹介

6/25

爽快な川下りに笑顔で挑戦



海洋センター職員の手ほどきでカヌーを楽しむ児童

中川根南部小がカヌー体験教室を行いました

中川根南部小学校は、隣接する大井川でカヌー体験教室を行い、同校5・6年生14人がB&G海洋センターの職員から指導を受けました。

体験教室は、カヌーの普及と青少年育成を目的に、町内全ての小・中学校と保育園、幼稚園で毎年実施されています。

最初は川の流れの速さに悪戦苦闘していた児童たちも、パドルの扱い方に慣れてくると歓声を上げて川下りを楽しみました。

また、同校1年生から4年生は同校プールでカヌー体験教室を実施しました。

災害時の電力復旧に関し協定締結

6/18

避難所となる自治体施設を対象、優先的に復旧支援

巨大地震などの自然災害に備え、本町と中部電気保安協会静岡支店が、「災害時における電気の保安に関する協定」を締結しました。

この協定により、災害発生時には対策本部が置かれる役場や避難所となる小中学校などの公共施設の電力復旧が優先的に行われます。

調印式には、佐藤町長や鈴木廣信静岡支店長が出席。佐藤町長が「電気は重要なライフライン。協定の締結に感謝します」とあいさつすると、鈴木支店長は「避難所へ優先的に復旧支援を行うことで、町民の役に立ちたい」と述べました。



協定を締結した佐藤町長㊦と鈴木静岡支店長㊧

明るいまちづくりを推進

7/1

統一標語「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」

明るい町づくりの会は、犯罪・非行防止などを呼び掛ける街頭啓発運動を町内6カ所で実施し、会長の佐藤町長をはじめ、保護司・民生委員・駐在所警察官など約90人が参加しました。

社会を明るくする運動強化月間に合わせた取り組みで、参加者は通勤途中の町民や登校中の児童とあいさつを交わしながら、うちわやティッシュなどの啓発グッズを手渡しました。

参加した奥泉駐在所の佐野智行巡査部長は「自転車などの事故も多く、社明運動と交通安全運動の両面で啓発に努めたい」と話しました。



通学途中の児童に啓発グッズを手渡す

6/14

無事故でレジャーを楽しんで

川根北分遣所が水難事故に備えて救助訓練を実施

行楽期を前に、島田市消防本部金谷消防署川根北分遣所は、本川根B & G海洋センターのプールで水難救助訓練を実施しました。

訓練には職員14人が参加し、基本泳法の確認や水中での救助用装具の装着、実際の事故を想定した救助活動訓練を行いました。

金谷消防署の池ヶ谷副署長は「河川を訪れる際は飲酒後の遊泳や体力の過信はせず、無事故で楽しいレジャーとしてほしい。また河川の周辺住民の皆さんも、危険な行為を見掛けたらやめるよう注意してもらえたら」と話しました。



職員の技術・知識向上や隊員間の連携強化を訓練の重点に

夏山シーズンの安全を祈念して

7/6

南アルプス・寸又峡口の山開き安全祈願祭が執り行われました

まちづくり観光協会主催の寸又峡口山開き安全祈願祭が南アルプス山岳図書館前にて開催されました。式典は神式で執り行われ、出席した佐藤町長や観光関係者など約50人が夏山登山の安全を祈願しました。

また、山開きを記念した沢口山トレッキングツアーも行われ、16人の参加者が夏山の魅力を満喫しました。

夜には、天狗と山伏が温泉街を練り歩く「天狗と山伏の湯かけ行列」や赤石太鼓の演奏が行われ、夏山シーズンの到来を祝いました。



無事故を参加者全員で祈願しました